

開催報告 第9回 日本医療マネジメント学会学術総会

第9回 日本医療マネジメント学会 学術総会会長 落合 慈之 (NTT東日本関東病院 院長)

平成19年7月13日(金)、14日(土)の両日、東京・高輪のグランドプリンスホテル新高輪・国際館パミールにおいて第9回日本医療マネジメント学会学術総会を開催させていただきました。初の東京開催に加え、日本学術会議より6月21日に日本学術会議協力学術研究団体の指定を受けた後の最初の開催ということで、本学会にとっても、また、運営に携わらせていただいたNTT東日本関東病院スタッフ一同にとっても誇らしい記念すべき学術総会となりました。

残念であったのは折からの台風4号の影響で2日目が悪天候となり、一部の方々が参加を見合わせられたり、また、参加者の多くも帰路に多大の不自由を強いられたことでした。事前登録:2,246名、当日登録:1,382名、合計:3,628名の参加でしたが、主催者として参加頂いた各位に心より感謝申し上げますと共に、台風の影響を蒙られた皆様には改めてお見舞いを申し上げます。

主題は「医療のより良い提供体制とより良い利用方法を求めて～限りある医療資源を有効利用するために～」でした。これに対し、一般演題(口演/ポスター) 584題、クリティカルバス展示115題の応募をいただきました。いずれも採用とし、テーマごとに出来る限り会場を統一して、同一テーマのシンポジウムとも併催にならないように工夫しながら、口演については初日8会場 40セッション、2日目7会場 33セッションとしてご発表をお願いしました。どの会場も満員で、それぞれに熱気にあふれる討論を繰り広げて頂きました。ポスターは企業展示会場に隣接して発表会場を設けましたが、非常に多くの方にお訪ね頂きました。初日夕方6時からの発表時間には、Evening session with wine と銘打って、飲み物と軽食を用意させて頂きましたが、ワイングラス片手に談論が風発、討論・親交の輪が収束したのは夜9時近くでした。

開会式会場風景



落合慈之の会長挨拶



講演中の綾戸智絵氏

招待講演と教育講演はそれぞれ 参会者全員が一堂(一部同時中継もとりいれましたが)で聞くプレナリーセッションとしました。折角の名講演を、ご自身の発表や座長等のデューティで聞き逃す無念を避けなかったからです。

綾戸智絵氏(招待講演1)には「世界中の医療者との出会い」と題して、ご自身のアメリカでの妊娠・出産・精神的葛藤にまつわるエピソードを、気さくな人柄そのままに、陽気にお話し頂きました。公開講座を兼ねており、一般聴衆も20名ほどいらっしゃったようです。定員1,600名のA会場は1席の空席もなく、同時中継した定員430名のB、C会場も満員の大盛況でした。「アメリカ医療の光と影」といわれますが、ホームドクターが果たすべき光の部分を変えて教えて頂きました。

畑村洋太郎先生にお願いした教育講演「失敗学のすすめ」も期待に違わぬ名講演でした。現場に直に足を運ばれ、ご自身の目でご覧になり、ご自身の耳で聞かれた数々の事故や失敗の事例を、系統的に整理され、医療の現場に今日からでも応用可能なようにお話し頂きました。最近ではあまりにご多忙で、講演をお断りになられることが多く、今回の講演は2年前からの約束だからということでした。

招待講演2は「人の育て方」と題して、平辰 大庄株式会社社長にお願いしました。身一つから日本中に日本海 庄やチェーンを展開されるまでになった方の、人情、優しさ、そしてある意味での厳しさを極めてフランクに語って頂きました。誰でも窮地にあるとき、絶頂にあるときがあり、その折々の決断の仕方など、多くのエピソードをはさまれてのお話しに会場は感動に包まれました。会場全体しわぶき一つ無くとはまさにこのことでした。

シンポジウム会場風景



クリティカルバス展示発表

